

## 松坂よしひろ市議と松坂後援会 榎本恵一役員による

### 森田市長潰しの「怪文書」悪乗りの《えげつない》二人三脚

森田市長潰しに、政治性のカケラもない悪意に満ちた「怪文書」の書き手を「同志」と呼び、「怪文書」をコピーし嬉々として東松山市内に撒き散らす松坂よしひろ後援会の榎本役員。かたや松坂よしひろ市議は、森田市長の後釜に座る自分の姿を夢想し、榎本役員の行動を容認して恥じるところがない。東松山市政に参画する政治家として、あまりにも無思慮で、えげつない品性無き政治活動ではあるまいか！取材の本紙記者を前に「怪文書」の内容を賛美する松坂よしひろ後援会榎本役員。彼の発言から、意図的に書き手を不明とする「怪文書」を作成したかを思わせる節（ふし）が多分にあるのだ。おそらく、「怪文書」のコピーを配布する過程でも市民にバレバレの姿を見せているのである。今や榎本氏と松坂市議は、書き手の存在を承知しているのか、もしくは己の手で「怪文書」を作成したのではないかとする噂が、東松山市内のあちこちで囁かれている。

#### ◇本紙を悪用した政治理論なき松坂・榎本コンビの醜態。

#### ◇低俗な「怪文書」と本紙を抱き合わせた知性なき自己主張。

「怪文書」の第一弾には本紙が二年前に出した新聞が断りもなく添付されていた。

本紙は市政運営のスタートラインに立ち、旧態の因習を踏み越える、前途に期待のもてる森田氏に対して、厳しい緊張感を与えた。松坂市議は、本紙の森田市長に向けた鞭の厳しさを悪用した。松坂陣営は、「怪文書」と本紙を合わせ、己の主張の如く配布した。

そればかりか、本紙記者が取材に訪れた際には「怪文書」の第一弾を見せびらかし、記者に対して「**森田批判を書いて貰うにはカネがかかるのか**」とまで言い放った。己の森田市長に対する憎しみに、誰しもが同調すると決めつける無知で身勝手な思考だ。本紙のプライドは、政治家もどきの仮面をかぶった政治思考なき男とその支持者に汚された。松坂市議は、それらと道連れで、「怪文書」と本紙を合わせて撒き散らす卑劣な行為を平然と企み、実行したことが露呈したのであった。政治家としての政論を堂々と主張することなく他人の書いたものを自己主張としなければならぬほど、松坂市議の中身はカラッポなのだ。こうした者が市民生活を豊かに出来る訳がない！

「怪文書」の内容は、第一弾から第四弾まで森田市長に対する罵詈雑言に満ちている。第一弾には「**錬金術師・企業誘致を隠れみのにした金儲けを暴け**」とあるが、王将フードサービス・しまむら・ヤオコーといった名だたる企業が、数ある候補地の中から東松山市を選択したのは森田市長の努力の成果である。

寝食を忘れて各企業を回り、礼を尽くしたことが企業のトップの心を揺り動かしたのだ。なにも森田市長は、自分の懐を肥やすために努力したのではない。企業進出によって市の財政を潤わせ、市民の雇用確保と福祉の充実という政治理念を実現するために必死の努力をしているのだ。東松山市の職員も頑張り、行政刷新の気運はさらに森田市長の背中を押している。

不穏当な記事。森田市長憎しの暴走！松坂市議（ここまでやるか…！）

「創価学会」批判票を狙った公明党叩きの

「怪文書」を撒き散らす松坂陣営…

また「怪文書」第二弾では「森田氏は、特定の宗教団体と密接な関係がある」と言い切っている。その記事は、誰の目からも公明党とその支持母体の創価学会であることがわかる。森田市長の代になってから市の職員が「全て宗教団体の関係者」であり、東松山市はこのままでは、その「宗教団体の傘下になりかねない」とあり、固有名詞を避け「特定」としているが、特定の宗教団体とは公明党の母体である創価学会を指していることは明白だ。政治の中道を歩み左右政党の激突の緩衝帯となり、バランスのとれた国会運営を計る政党に対し、敵意を剥（む）き出している。

つまり、この「怪文書」の書き手は、この記事によって公明党と創価学会への批判票を集めることができるのではないかと目論んだのである。うなずける政治批判ならともかく、内容は政治性の根も葉もない虚偽情報に基づく悪意だ。それで批判票を集めることができると考えたのなら、あまりにも愚かしい！

さらに森田市長の家族・親族の悪口も掲載されている「森田市長にはかなりの金がかかっていると確信している。」とまで書いているが、確信と言いながらそれを詳（つまび）らかにしない。さらには森田市長の夫人が「市長の妻の器ではない」とも書いている。政治家の家族・親族の批判はタブーだ。下種（げす）の勘繰りを記事にした「怪文書」をブリ撒く者こそ正（まさ）に政治家の品性の欠けらもない情けない人間といえよう。これもまた、榎本発言の発言と一致している。本紙記者は怒りを堪（こら）え、榎本発言の全てを記録した。聴き苦しい不穏当な発言の集約を…。

—東松山市民は松坂市議のデマに踊るほど愚（おろ）かではない—

こうした誹謗中傷に満ちた汚い「怪文書」の見本ともいえるべき「怪文書」。

このような形で森田市長が：その家族が：市職員が：果ては政権与党を担う公明党までにネガティブな印象を植え付け、落選を確実なものにできると考えているのか？

東松山市民は松坂市議が思うほどの愚（おろ）か者か、無礼である。あまりにも有権者をバカにしすぎている。本紙では「怪文書」に書かれた内容の正否を徹底取材した。

しかし、そこには松坂市議の思いこみで真実はない。政治家とはいま現在、「何（なに）を為（な）すべきか」、「何（なに）を為（な）したか」で評価されるのだ。

森田市長は前進している。評価してよい。悪ければ蹴落とす。松坂市議は「怪文書」を撒き、自己主張に明け暮れる無責任な、これが政治家なのかという呆れ果てた人物だった。失望した。前進する政治家。失望する政治家。この比較は東松山市民の選択だ。恥を知らぬ男、松坂よしひろ市議は、その虚偽に満ちた「怪文書」を剣に替えて市長選対抗馬として森田市長に戦いを挑んでいる。もはや、この行為は名誉毀損という犯罪にあたる行為であると断定せざるを得ない。最後に本紙は東松山市民をたぶらかす松坂市議と陣営首脳部に告げる！

松坂市議が仮にも政治家であるという自負を抱くなら、真正面から政治論争を挑め。松坂よしひろ市議の歳費は市民の税金が原資だ。市民の原資で市政に参画する以上、卑劣な行為は許されない。君の今できることは、議会より去ることだ■